STORIES FROM THE CAPITAL

27
ISSUE

2022 春季号

TAIPEI 台北

七色に染まる春の台北

特集記事

虹の街台北　カラフルな MRTで日帰り旅行

TAIPEI 台北

PICK UP POINTS 本誌は以下の場所で無料で配布してます。

台北市政府觀光傳播局 /
台北市観光伝播局
Department of Information and Tourism, Taipei City Government
☎ (02)2720-8889 / 1999 内線 7564
〒 台北市市府路 1 号 4 階

台湾桃園国際空港第一ターミナル 到着ロビーのトラベルサービスセンター
Tourist Service Center at Arrival Lobby, Taiwan Taoyuan International Airport Terminal 1
☎ (03)398-2194
〒 桃園市大園区航站南路 15 号

台湾桃園国際空港第二ターミナル 到着ロビーのトラベルサービスセンター
Tourist Service Center at Arrival Lobby, Taiwan Taoyuan International Airport Terminal 2
☎ (03)398-3341
〒 桃園市大園区航站南路 9 号

松山車站 / 松山駅
Songshan Station
☎ (02)2767-3819
〒 台北市松山路 11 号

南港車站 / 南港駅
Nangang Station
☎ (02)2783-8645
〒 台北市南港路 1 段 313 号

美國在台協會 / アメリカ在台湾協会
American Institute in Taiwan
☎ (02)2162-2000
〒 台北市金湖路 100 号

遠企購物中心 /
遠企ショッピングセンター
Taipei Metro the Mall
☎ (02)2378-6666 内線 6666
〒 台北市敦化南路 2 段 203 号

國語日報語文中心 /
国語日報語学センター
Mandarin Daily News (Language Center)
☎ (02)2341-8821
〒 台北市福州街 2 号 2 階

台北松山機場 / 台北松山空港
Taipei Songshan Airport
☎ (02)8770-3430
〒 台北市敦化北路 340-9 号

瓶蓋工廠台北製造所 /
瓶蓋工場台北製造所
POPOP TAIPEI
☎ (02)2785-9900
〒 台北市南港路 2 段 13 号

台北美國學校 / 台北アメリカンスクール
Taipei American School
☎ (02)2873-9900
〒 台北市中山北路 6 段 800 号

國立國父紀念館 / 国立国父紀念館
National Dr. Sun Yat-sen Memorial Hall
☎ (02)2758-8008
〒 台北市仁愛路 4 段 505 号

國立中正紀念堂 / 国立中正紀念堂
National Chiang Kai-shek Memorial Hall
☎ (02)2343-1100
〒 台北市中山南路 21 号

台北當代藝術館 / 台北当代芸術館
Museum of Contemporary Art (MoCA), Taipei
☎ (02)2552-3721
〒 台北市長安西路 39 号

市長官邸藝文沙龍 /
市長官邸アートサロン
Mayor's Residence Arts Salon
☎ (02)2396-8198
〒 台北市徐州路 46 号

台北國際藝術村 / 台北国際芸術村
Taipei Artist Village
☎ (02)3393-7377
〒 台北市北平東路 7 号

台北二二八紀念館 / 台北二二八紀念館
Taipei 228 Memorial Museum
☎ (02)2389-7228
〒 台北市凱達格蘭大道 3 号

交通部觀光局旅遊服務中心 /
交通部観光局トラベルサービスセンター
Travel Service Center, Tourism Bureau, M.O.T.C
☎ (02)2717-3737
〒 台北市敦化北路 240 号

台北之家 / 台北之家
Taipei Film House
☎ (02)2511-7786
〒 台北市中山北路 2 段 18 号

台北市政府市民服務組 /
台北市役所市民サービスカウンター
The public service group of Taipei City Government
☎ (02)2720-8889 / 1999 内線 1000
〒 台北市市府路 1 号

士林官邸 / 士林官邸
Chiang Kai-shek Shilin Residence
☎ (02)2883-6340
〒 台北市福林路 60 号

台北市孔廟 / 台北市孔廟
Taipei Confucius Temple
☎ (02)2592-3934
〒 台北市大龍街 275 号

台北記憶倉庫 / 台北記憶倉庫
Taipei Info Hub
☎ (02)2371-4597
〒 台北市忠孝西路 1 段 265 号

松山文創園區 /
松山文化クリエイティブパーク
Songshan Cultural and Creative Park
☎ (02)2765-1388
〒 台北市光復南路 133 号

華山 1914 文化創意產業園區 /
華山 1914 文化クリエイティブパーク
Huashan 1914 Creative Park
☎ (02)2358-1914
〒 台北市八德路 1 段 1 号

國立台灣博物館 / 国立台湾博物館
National Taiwan Museum
☎ (02)2382-2566
〒 台北市襄陽路 2 号

台北市立圖書館 / 台北市立図書館
Taipei Public Library (Main & branches)

台北市旅遊服務中心 /
台北市観光案内所
Visitor Information Centers in Taipei

MRT 各駅
All Stations of MRT Lines

伊是咖啡 / IS コーヒー
Is Coffee

誠品書店 / 誠品書店
eslite Bookstore

金石堂書店 / 金石堂書店
Kingstone Bookstore

EDITOR'S
INTRODUCTION
編集者の言葉

春の胎動、色づく台北

草木が芽吹く春は、台北に活力をもたらし、色とりどりの花が街中を美しく染め上げます。今季の《TAIPEI》は、「七色に染まる春の台北」をテーマに様々な色に合わせた台北の文化や風景を紹介しています。

まずは路線が各色で分けられている台北メトロ（MRT）を軸にそれぞれの路線に合った日帰り旅行プランを提案しています。

続いて台北のスポット紹介では、温泉街として有名な北投と台北のリバーサイド、そして春らしいお花見スポットをピックアップしました。

文化面では台湾伝統の獅子舞を後世に残すために努力し続けるチームにインタビューを敢行。建築という観点からは台湾の伝統である閩南式建築に注目し、観光のスポットを紹介しています。

台北の農家にはサスティナブルな農法を実践する夫妻がいて、自然に作られた食品だけでなく、都会の子どもたちに農業体験の機会を提供しています。その精神についてお話を伺いましたので要チェックです。

飲食については台湾産の豆に強いこだわりを持つコーヒーショップ、台湾伝統の手作り豆腐を提供する豆腐店を特集。いずれもここでしか聞けないお話をまとめました。

他にも大工の下積みを積んだデザイナーに古民家に対する愛情を語っていただくなど盛りだくさんの内容になっています。

春は街中が活気づき、新しいことに挑戦するのに最適な時節です。ぜひ台北にある色とりどりの景色を探しに出かけてみてはいかがでしょうか。

TAIPEI からのお知らせ

1. 新型コロナウイルスが流行中です。外出時に必ずマスクを着用し、政府の発表する防疫規定を遵守してください。
2. 本号に掲載されている写真は資料用のものが多く含まれていますので、マスクを着用していない写真も使用されています。

アンケートに答えて
抽選キャンペーンに参加しよう！

ISSUE 27

STORIES FROM THE CAPITAL
2022 春季号

七色に染まる春の台北

写真 / 華山 1914 文化創意産業園区

COVER STORY

04 虹の街台北 カラフルな MRT で日帰り旅行

CITY SCENE

14 台北の人気温泉地

20 台北にある河畔の魅力

24 春の花を求めて 台北に咲く紫色の花

CULTURE & LIFESTYLE

30 現代の文化遺産 大龍峒金獅団

36 台北に息づく閩南式建築の精神

A CITY FOR CHANGE

40 八仙六代園 台北での「グリーン革命」

FOOD & DRINKS

48 台北の手作り豆腐

54 ほろ苦く甘い台湾コーヒーの香り

A DAY IN THE LIFE

60 古民家に注ぐ愛

TAIPEI 郵政劃撥（郵便振替）での定期購読について / 6 期
振替口座番号 / 16630048
振替口座名義 / 台北市観光伝播局

台湾国内	**NT$180 元**	**（普通郵便で発送）**
香港、マカオ	**NT$540 元**	**（航空便で発送）**
アジア太平洋地域	**NT$660 元**	**（航空便で発送）**
ヨーロッパ / アメリカ / アフリカ地域	**NT$900 元**	**（航空便で発送）**

台北市観光伝播局
書面による許可なく本誌の全部または 一部を複製・複写することはできません。

オンライン雑誌：www.travel.taipei/ja
> マルチメディア > TAIPEI

PRINTED WITH SOY INK

本誌は大豆インクを採用 ています。

TAIPEI 台北

発行者 / 劉奕霆 **編集長 /** 鄒佳穎 **副編集長 /** 陳其睿 **編集 /** 林婉婷 **マーケティング /** 李宗岳、陳俐雯 **翻訳 /** 下山敬之、吳婕如、陳苡寧
カバーデザイン Broo 品牌釀造室

台北市観光伝播局 **住所** / 台北市市府路 1 号 4 階 **Tel** / 1999（台北市外からは 02-2720-8889）内線 7564 または 7566 **Fax** / (02)2720-5909
Email / taipei_quarterly@mail.taipei.gov.tw **ISSN** / 24137774 **GPN** / 2010402343
本誌に対するご意見、ご要望どがございましたら、是非、E-mail またはファックスにてお寄せください。
デザイン **Taiwan Scene 讓世界愛上台灣股份有限公司** **Tel** / (02)2562-5005 **Fax** / (02)2562-5505
中華郵政台北雜字 第 1377 號執照登記為雜誌交寄 / **本号定価 NT$30 元**

虹の街台北

カラフルな MRT で日帰り旅行

文：Jenna Lynn Cody　編集：下山敬之　写真：Taiwan Scene、華山 1914 文化創意産業園区、松山文創園区、Yengping、西門紅楼、POPOP 台北、台北市会展産業発展基金会、 Wei-Te Wong、 Vũ Nguyễn Xuân、台北市政府観光伝播局

台北 MRT は 1996 年に最初の路線が開通して以来、台北市の交通の要となっています。すばやく安全に街中を移動できるため、日常的な交通手段としてだけでなく、市内の観光をする際にも最適です。

現在、台北 MRT の各路線は虹の色で分けられています。レッドライン（淡水信義線）は淡水から象山までの中央を南北に結び、ブルーライン（板南線）、グリーンライン（松山新店線）は中心部を東西に横断、ブラウンライン（文湖線）とオレンジライン（中和新蘆線）は台北の東側、西側をそれぞれ南北に繋いでいます。最近できたイエローライン（環状線）とパープルライン（桃園機場捷運）は主に台北の中心地と郊外を結んでいるので、どこへ行くにも台北 MRT は欠かすことができません。また各沿線には、伝統的な地域や現代的な地域、都会的な場所、アウトドア活動に適した場所などがあり、日帰り旅行にも最適です。

ここでは路線別に厳選した日帰り旅行スポットを紹介していきます。自然あふれる場所、都会的な場所、歴史的建造物が建ち並ぶエリアからクリエイティブな地区、散策に適した場所、リラックスできるスポットをまとめましたので、気になった場所があればぜひ旅行に出かけてみてください。

01

O オレンジラインで街を探索

台北はビジネスの中心地であると同時に、文化や歴史に関連するスポットが豊富です。特にオレンジラインは、台北のエネルギーが集まるエリアやエレガントな文化的スポットにアクセスできます。

日中　忠孝新生駅

華山 1914 文化創意産業園区

MRT 忠孝新生駅から歩いてすぐの場所に、古い工場をリフォームした広場があります。ここは 1914 年に高麗人参酒の酒造工場として利用されていた場所で、2000 年代初頭に改装され、今では地元のデザイナーの製品を販売するショップや飲食店、展示会場、イベントスペース、劇場などが立ち並んでいます。クリエイティブマーケット、コンサート、その他各種イベントも開催されていますし、緑が豊かな公園で一休みするのもオススメです。

午後 行天宮駅

行天宮 ・ 命理大街

行天宮は後漢時代の人物である関羽（関聖帝君）を祀っている寺廟で、商業や守護神として知られています。そのためビジネスマンや軍人、警察官などが主に参拝に訪れます。行天宮は台湾の寺廟の中では比較的シンプルな設計となっていること、至るところに龍の装飾が施されていることが特徴です。

行天宮の周囲には占い通りとして有名な地下道があります。台北にある占いのほとんどは中国語ですが、ここでは日本語や韓国語など外国語を話せる占い師もいます。

01. 緑の公園と古い建築を改装した展示スペースを有する華山1914 文化創意産業園区は台北で人気のスポットです。(写真 / 華山 1914 文化創意産業園区)

02. 行天宮は台北における宗教信仰の中心で、地元の人や観光客で毎日賑わっています。(写真 /Wei-Te Wong)

03. 屋台料理が数多く並ぶ延三夜市では台湾ならではの賑わいが感じられます。

02

03

夕方 大橋頭駅

延三夜市

夕方になったら台北で最もローカルな夜市である延三夜市へ向かいましょう。美味しい羊鍋から牛肉麺のスープ、刈包、臭豆腐といった現地のグルメが味わえます。また、中には米糕や湯圓、キャベツ炒飯、ポークリブのスープなど、台北ビブグルマンに選ばれている屋台もあるので、そちらもお見逃しなく。

R レッドラインでリラックス

日常生活のストレスから解放されたい人や一日中リラックスして過ごしたい人にはレッドラインがオススメです。この線沿にはカラフルな街の雰囲気を楽しみながら春を感じられる場所がたくさんあります。

昼間 圓山駅

花博公園と台北市立美術館

MRT 圓山駅周辺の広々とした公園には、心を落ち着かせてくれる美しい景色が多々あります。まずはMAJI 広場の隣にある花博農民市集に行ってみましょう。ここでは、台湾各地の農家が直売している新鮮な農産物を購入できます。混雑を避けるためにも朝の早い時間帯に訪れて、買い物が終わったら近くにある公園の芝生でピクニックをするのがオススメです。敷地内には大人が楽しめるの花博争艷館、子供用の遊具、インスタ映えするスポットも多く、週末はカップルや家族連れなど多くの人たちが訪れます。

芸術鑑賞が好きな方は花博公園の北側にある台北市立美術館がオススメです。1983 年に開館したこの美術館は高度経済成長期に日本で生まれた「メタボリズム」が建築のスタイルに反映されています。最近は内装が改装されたこともあり、地元の人や観光客で賑わっている場所です。展示品に関しては、台湾人アーティストの作品が中心で、繊細なアートと現代的なインスタレーションが組み合わされた作品があるほか、古典的な作品から現代の作品まで様々な台湾アートに触れられます。

04

05

04. 台北市立美術館では現地アーティストの創造性あふれる作品が鑑賞できます。

05. 毎週末に台北花博で開催されているファーマーズマーケットでは、台湾各地の新鮮な野菜や果物が販売されます。(写真 / 台北市会展産業発展基金会)

06. 散策に疲れたら臨江街夜市へ行き、温かい屋台料理で一休みしましょう。

07. 信義区にあるショッピングモールやレストランはいつも人々とその活力で満ちています。(写真 / 台北市政府観光伝播局)

06

夕方 / 夜 信義安和駅

臨江街夜市

台北東部の中心に位置する臨江街夜市は、食べ物と買い物をする人たちが多く訪れます。移動販売をする人たちが多く、ティラミスや貝殻で作られた指輪など、ここでしか手に入らない商品もあります。食べ物の屋台も多く、ウイグル式のラム肉の串焼き、鉄板焼き、台湾のカキオムレツ、ベトナムの新鮮なバインミーなど国際色豊かなメニューが揃っています。

夕方 / 夜 台北 101 / 世界貿易センター駅

信義商圏

レッドラインの南の終着にある信義区にはバーやラウンジ、ガストロパブなどがあり、1 日の締めくくりを迎える際にオススメです。大型デパートの間にある歩道ではストリートパフォーマンスやクリエイティブな作品を販売する屋台などがあります。この周辺には、ナイトクラブから賑やかなバー、リラックスできるスポットがあり、そのほとんどがデパートやホテルなどの施設内にあります。ライトアップされた台北 101 の景色も間近で眺められるので、ぜひ夜の台北を味わってみてください。

07

BL ブルーラインで古都台北のイノベーションを発見

台北の活力の秘訣は、その伝統を大切にしながら、絶えずイノベーションを実現していることにあります。ブルーラインには歴史的建造物を改築した施設が多く、文化活動が多々行われています。

日中 龍山寺駅

艋舺龍山寺と新富町文化市場

龍山寺は台北で最も活気のある寺院で、現代的なアートワークも多く行われています。龍山寺は非常に長い歴史を持ち、青銅の柱に彫られた龍は祀られている神々と同じように台北を守り続けてきました。

この一帯は台北の中でも歴史のある地域で、かつては「艋舺（ばんか）」、現在は万華と呼ばれています。この地域は歴史的建造物が多く残っていて、それらがリノベーションされることで新たな活用がなされています。特に顕著なのが U 字型の建築構造が特徴的な新富町市場です。ここは 1935 年に建てられた建物で、1990 年代に地域が衰退したことで、この建物の商業活動も停止しました。

現在は、建物の歴史に関する常設展示があるほか、セミナー会場やキッチンスペース、ユニークなカフェとして利用されています。また、写真撮影に最適なアトリウムもあるので、若い人たちに人気のスポットとなっています。

08

09

08. 新富町文化市場は、独特な U 字型の建築構造を特つ万華区の新しい観光スポットでした。(写真 / Yengping)

09. 歴史ある宗教的建築物での龍山寺は、台北の人たちが心の平安を願う拠り所となっています。

10. 松山文創園区の中には台湾のブランドがデザインした商品が数多く揃っています。(写真 / 松山文創園区)

11. POPOP 台北は新しくできたスポットであり、マーケットなどのイベントが数多く開催されています。(写真 /POPOP 台北)

午後 国父記念館駅

松山文創園区

松山文創園区にある建物は、もともと 1937 年にたばこ工場として建設されたもので、1998 年に閉鎖されました。2001 年に市政府によって史跡に指定された後、2010 年に復元され、現在ではクリエイティブな才能を育むための施設として機能しています。

園区内には池や緑があり、地元の人や観光客を問わず憩いの場として人気です。施設内にはデザインセンターがあり、アート作品の展示がされているほか、カフェやショップなども多いので、のんびりと過ごすのに最適な場所です。

10

11

午後 南港駅

POPOP 台北（瓶蓋工場台北製造所）

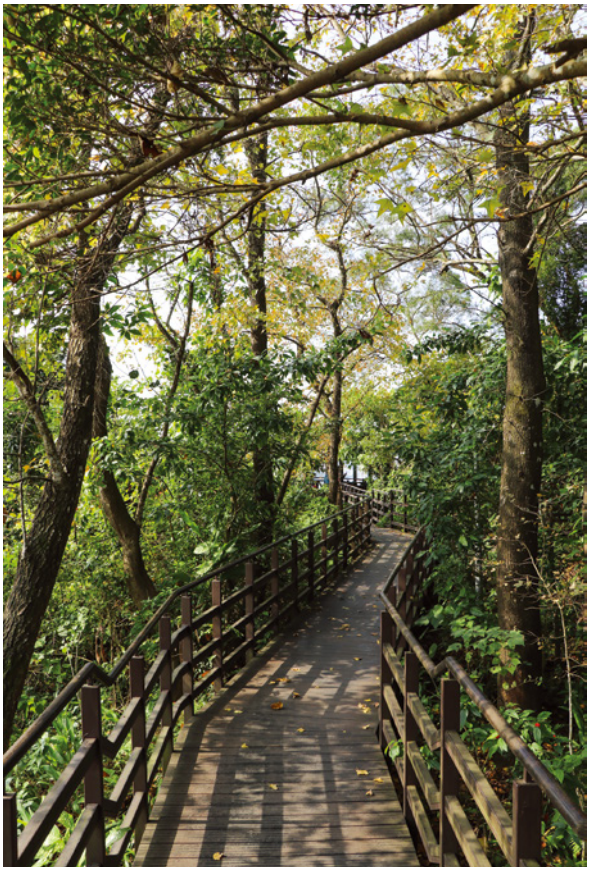
POPOP 台北は華山 1914 文化創意産業園区や松山文創園区と比較すると、比較的新しい文化スポットです。ボトルキャップ工場として 1943 年に建設されたこの建物は、2013 年に解体が予定されていましたが、クリエイティブスペースとして再開発されました。2020 年に正式オープンしたこの場所は、メーカーやイノベーター向けのスペースとして大きな注目を集めています。

施設内には大規模なコワーキングスペースなどがあるほか、外観にはボトルキャップのデザインが取り入れられるなど、視覚的に楽しめる工夫がなされています。他にもテラス付きのカフェやバー、台北の骨董品を扱うアンティークショップなどもあります。

G グリーンラインでエネルギッシュな一日体験

台北の特徴の１つとして、アクティビティを行える場所が豊富であることが挙げられます。特にグリーンラインには気軽に楽しめるハイキングコースや歩行者天国のあるショッピングエリアなど、活動的な方にオススメのスポットが集まっています。

12



13

日中 景美駅

仙跡岩歩道

仙跡岩歩道へは景美夜市の裏側にある景興路から狭い階段を上っていきます。最初は古めかしい建物が立ち並びますが、それを通り過ぎると自然が広がります。山頂近くには凹んだ岩がありますが、これは無敵の強さで村人を恐怖に陥れた悪魔を打ち負かした呂洞賓という人物の足跡だと言われています。実際に辛亥トンネル側からの登山コースの山頂付近には呂洞賓を祀った寺院があります。

仙跡岩からは台北市の美しい景色が眺められるほか、道中にペイントを施して顔のように見せている奇妙な岩がありますので探してみてください。ハイキングコースとしては短めですが、都市から離れることなく自然に触れられるスポットです。常緑高木であるソウシジュは、このコースの中の至るところに生えていて、山中に涼しい日陰をもたらし、５月には黄色い花を咲かせます。コースへの入り口は複数あり、いずれもお子様連れでも登頂が可能です。

14

日中 公館駅

台北自来水園区

MRT 公館駅の周辺には様々な飲食店が立ち並んでいて、ランチの選択肢が豊富です。また、駅から徒歩で行ける台北自来水園区の隣にある水道博物館は、親子揃って出かけるスポットとして人気があります。この博物館は 1908 年に竣工した水源地ポンプ室を再現したもので、2000 年に修復されました。現在はかつての設備を展示しているほか、プールやウォータースライダーなどの遊び場もあるので、夏には多くの人で賑わいます。

また、時代を感じさせる外観はウェディングフォトにも利用されるなど、子供だけでなく大人も楽しめるスポットです。

夕方 西門駅

西門町

西門町にある歩行者天国は、台北の中でも非常に活気のある場所です。この歩行者天国は台湾最古のものであり、他のエリアとは雰囲気が異なります。特に MRT 西門駅の 6 番出口近くにある小さな広場は、ショップやレストランが立ち並び、通りにはストリートパフォーマンスをする人やコスプレイヤーなどで賑わいます。また、このエリアは LGBTQ 文化の中心でもありますし、歴史のある建造物や、工芸品を販売するマーケットがあるなど、異なる趣を提供してくれるスポットです。

ショッピングエリアでは映画館で映画鑑賞を楽しむ、電子機器類や洋服、アクセサリーを購入する、有名なタトゥーストリートでタトゥーを入れるなど様々な体験ができます。

12. 台北の南端にある仙跡岩を登り、眼下に広がる台北の街並みを眺めましょう。

13. 仙跡岩のハイキングコースを歩くと、青々とした春の息吹が感じられます。

14. 台北自来水園区にある博物館には、かつてのインフラ設備が残っています。

15. かつては劇場として利用されていた紅楼は、現在の西門を代表するスポットとなっています。(写真 / 西門紅楼)

15

BR ブラウンラインで癒しのアウトドア

ここまでも紹介してきたように台北は数多くのアウトドアスポットを有する都市です。特にこのブラウンラインにはそれらが多く点在していて、仙跡岩のようなハイキングコースがいくつもあります。

16

朝 動物園駅

台北市立動物園

子供が大好きな動物園ですが、台北市立動物園は休日になると多くの家族連れの人たちで賑わう場所です。ここはアジアの中でも大規模な動物園の１つであり、非常に高い評価を得ています。園内は台湾固有の動物が生息する台湾動物エリア、オーストラリア ・ アフリカ動物エリアなどに分かれていて、その多くは屋外で飼育されています。他にもキッズエリアや人気のコアラ、ペンギンハウスなどがありますし、専用の車に乗って園内を巡るツアーも非常に人気です。

ここにはパンダを目的として訪れる人が多いですが、センザンコウという珍しい動物にも注目してみてください。飼育下で繁殖するのが難しい動物ですが、台北市立動物園では何世代にも渡って繁殖に成功しています。

午後 動物園駅

猫空ロープウェイ

観光地として有名な猫空りは、削られた岩肌が猫のひっかき傷のようであることから、台湾語の「猫面（ニャオビン）」という言葉にちなんで現在の名前となった場所です。ロープウェイの乗り場は前述した動物園の隣にあるので、午前中を動物園で過ごした後は、ロープウェイに乗って猫空へでかけましょう。移動中は山中に広がる茶畑を眺めることができますし、台北市の街並みも一望できます。

猫空は緩やかな傾斜が続いていることから気軽にハイキングが楽しめる場所です。主要道路には数多くの茶屋があるので、慣れていない方でも休憩を取りながら周辺の散策ができます。多くのお店がテラス付きなので、歩くのが苦手な方は緑豊かな景色の中で軽食を取りながら談笑を楽しみましょう。

17

午後 / 夕方 大湖公園駅

大湖公園

ブラウンラインの北の端にある大湖公園は、台北にいながら都会の喧騒を忘れて、のんびりと時間を過ごせるスポットです。ここには約 13 ヘクタールの面積を持つ湖と中国の伝統的な様式で建設された錦帯橋があります。美しいアーチ状をした錦帯橋は写真撮影に最適で、休みの日にはカメラを趣味とする人たちが集まります。

また、大湖公園は白鷺鷥山の麓にあり、公園からハイキングコースへ向かうことも可能です。アクティブに活動したい方は、湖を見てから登山を開始してみましょう。

18

16. 動物園ではニホンジカや台湾在来の動物が数多く見られます。

17. 猫空ロープウェイからは台北の山林が一望できます。(写真 / 台北市政府観光伝播局)

18. 大湖公園の美しい湖や山々といった風景は都会の喧騒を忘れさせてくれます。(写真 /Vũ Nguyễn Xuân)

01

台北の人気温泉地

文：Richard Williams　編集：下山敬之　写真：Taiwan Scene、Yengping、福禄文化基金会北投文物館、ホテルロイヤル北投、台北市北投健康管理医院、台北市政府工務局公園路灯工程管理処

台北はすぐそばに活火山がそびえ立つ世界的にも珍しい都市のひとつです。大屯火山群の麓に広がる北投区は、台湾の開拓史と同じくらい長い歴史を持ち、娯楽や休養、そして何より癒しの場として古くから栄えてきました。

北投は台北市中心部のすぐ北側にあり、地熱活動が活発です。温泉宿があちこちに点在し、公園には川が流れ、道沿いに湯煙が上がっています。

陽明山国家公園など北投の周囲には高さ 1,000 メートル級の山々がそびえていて、山頂まで伸びるハイキングコースにはピンク色に咲く春の花、鮮やかな黄色の硫黄溜まり、湯気を吹く噴気孔などの景色が広がります。

また、北投はウェルビーイングや健康というイメージが強い場所です。癒しの温泉、澄んだ空気、見事な風景を楽しめることから、地元の人や観光客を問わず、多くの人々が湯治や余暇活動のためにやってきます。最近では静養とステイケーションを組み合わせたパッケージ旅行も人気です。北投は温泉だけでなく様々な意味でホットなスポットとなっています。

北投の火山史

台湾には数々の先住民族がいましたが、北投はその中の一つであるケタガラン族（凱達格蘭族）が発見した場所です。「北投」という地名は、彼らの言語で「巫女」を意味する「キパタウー」に由来していて、北投の岩や水には不思議な力が秘められていると信じられてきました。

日本時代になると、北投は開発が進み、大きく栄えます。特に硫黄産業が急成長し、鉄道が急ピッチで敷設されました。現在、MRT 新北投駅の向かい側には、かつての線路と車両が残されているほか、昔ながらの素材と当時の設計や様式をそのまま復元した駅舎があり、旧鉄道の重要性と魅力を若い世代に伝えています。現在この駅舎は「新北投車站」と呼ばれ、この地域の鉄道史を伝える興味深い情報源となっています。

日本の統治下で硫黄産業が成長するとともに、温泉もまた大きな発展を遂げた産業のひとつです。当時は、日本人や台湾人の労働者たちが一日の疲れを癒せるよう、豪華な浴場が造られました。1907年創業の「瀧乃湯」など、日本時代の家屋の一部は今も浴場として利用されています。

百年前の姿を残すもう一つの温泉旅館が佳山温泉旅館です。美しい和風建築が特徴のこの建物は、

02

03

04

01. 長年に渡り白煙を上げている硫黄谷こそが北投にある温泉の源流です。

02-03. 100 年以上の歴史を持つ瀧乃湯には、かつて日本の皇太子が北投を訪れた際の記念碑が残っています。

04. かつての駅舎を復元した新北投車站は、北投の昔日の風景を思い出させます。(写真 / Taiwan Scene)

現在ではこの地域の歴史が学べる北投文物館となっています。特に北投における硫黄産業の発展、有数の観光地として栄えた時代、そして現代のように余暇を過ごすための癒しの地となるまでの変遷が、歴史的遺物の数々から伝わってきます。建物の中にはテラスから北投渓谷を望む素敵なレストランや、蒋介石元総統、日本の天皇も浸かったといわれる温泉など見どころが満載です。お食事を楽しんだ後は、館内の散策や温泉に浸かり、歴史に触れてみましょう。

北投公園の中心部に位置する北投温泉博物館もまた、日本植民地時代に建てられた建築物です。この壮大な建物は1913年に建てられたもので、当時はアジア最大の大浴場でした。日本の統治が終わってからは長らく放置されていましたが、1998年に博物館へと改装。現在では、北投の有名な公園を彩る見所の一つとなっています。また、同じく公園内にある台北市立図書館北投分館は、グリーンルーフと雨水循環システムを採用した、アジアの中でも非常にエコな図書館の一つです。

この地域の歴史を語る上で忘れてはいけないのが、北投中心新村です。元々は負傷兵を収容する医療施設として日本時代に建設され、その後は国民政府によって退役軍人向けの住居に改装されました。現在は博物館や画廊、アートスペースに生まれ変わり、パフォーマンスやサロンといった文化的イベントの会場となっています。文化的、芸術的な雰囲気が楽しめるだけでなく、異なる時代に建てられた住居、この村に残る温泉など歴史的な足跡をたどることもできます。

05

06

07

05. 古民家が完璧な状態で保存されている中心新村では、移り変わる時代の変化が見られます。(写真 /Taiwan Scene)

06. 現在は博物館となっている佳山温泉旅館は、日本の建築様式がそのまま残っています。(写真 / 福祿文化基金会北投文物館)

07. 北投温泉博物館には当地の温泉の歴史が展示されています。(写真 /Taiwan Scene)

08

温泉

北投は地下鉄の駅を出た瞬間など、外に出た瞬間に強い硫黄臭が感じられます。これは、周囲に個室風呂付きの高級ホテルや足湯などがあるためで、北投の特徴の一つとなっています。

お手軽に入浴をするなら北投公園の温泉がオススメです。ここは公園の中心にある露天風呂で、地域の暮らしぶりが感じられるスポットとなっています。特に水着を着用して入る男女混合のプールは、現地の人たちの間で非常に人気。浴槽が丘の上に交互に並び、最上段にあるものが最も熱く、水質もキレイです。たった60元の入場料で現地の人との交流ができます。

足湯だけで十分という方は、他の公園に行ってみましょう。特に人気があるのは復興公園の足湯で、すぐそばには飲食店も並んでいます。作法は日本と変わらず、靴を脱いでズボンの裾をたくし上げて、お湯に足を浸すだけです。

その他にもニーズに合わせて様々な選択肢があります。高級感あふれる浴場を求めるなら新北投車站の向かいにある山楽温泉、豪華なリゾートホテルが希望であれば三二行館などです。昔ながらの浴場に浸かりたい方は陽明山国家公園の堺にある皇池温泉御膳館、川湯会館へ立ち寄りましょう。また、入浴が済んだ後は、蟹粥をはじめとする郷土料理を堪能してみてください。

08. 無料で利用できる復興公園の足湯は訪れる人たちの心身を癒やしてくれます。

絶品料理

レジャースポットとして長い歴史を持つ北投で育まれた食文化は、どんな食通も満足することでしょう。特にお酒にも合う宴会料理が有名で、ミシュランガイドにも掲載されている蓬萊餐庁は一見の価値あり。特に豆腐巻きや豚肉の唐揚げは外せません。

日本時代の北投の姿を思わせる特徴として、趣のある居酒屋が点在していることが挙げられます。中でも蔦焼日式居酒屋は、串焼きやチャーハン、キンキンに冷えた生ビールが楽しめるお店です。

一軒だけでは物足りないという方は、北投市場や、その周辺にあるレストランや商店を回ってみましょう。この界隈では、阿宗蚵仔煎のカキ料理が注目されていて、フライパンでサクサクに仕上げた牡蠣オムレツは絶品。行列に並ぶのもいとわない人は、矮仔財のルーロー飯も試してみてください。食後には高記茶荘で種類豊富なお茶をいただきましょう。

10

09

09. 北投市場は有名なルーロー飯 などの美味しい料理で溢れています。

自然の美

北投の周辺は自然が非常に豊かです。北投公園の最奥にある地熱谷は、青々とした山々を背景に、紺碧のお湯がブクブクと泡立ち、蒸気を吹く、なんとも神秘的なところです。街の反対側には、色とりどりの花が咲くことで有名な北投社三層崎公園が広がっています。シロタエギク、ワックスベゴニアなどの花々が帯状に斜面を飾り、どの角度から見てもうっとりするような風景を作り上げています。

他にも硫黄谷は、噴気孔が泡立ち、間欠泉が蒸気や湯気を吹く場所であり、北投における硫黄採掘産業の名残に触れられます。北投は公共レンタル自転車の「YouBike」のステーションがたくさんあり、気軽にこうした名所を回れるので、ぜひ活用してみてください。

宿泊施設

北投公園やその周辺には、高級なものからリーズナブルなものまで様々な温泉ホテルが建ち並んでいます。中でもホテルロイヤル北投は、ホスピタリティの高い宿泊施設として有名です。ムスリムフレンドリーの認証を受けたこのホテルは、台北市北投健康管理医院と提携し、宿泊と病院での健康診断をセットにしたプランを提供しています。温泉付きの客室や栄養士が考案した健康的な料理、快適な施設設備が利用できます。他にも医療の専門家と協力し、工夫を凝らしたきめ細かなサービスを提供しているので、休養をしたい方に最適です。T

12

13

11

10. 春の北投社三層崎公園は山の斜面に色とりどりの花が咲いています。(写真 / 台北市政府工務局公園路灯工程管理処)

11-13. ホテルロイヤル北投では病院と提携し、湯治と健康診断を組み合わせたプランを作り出しました。(写真 / 右：ホテルロイヤル北投；上＆下：台北市北投健康管理医院)

台北にある河畔の魅力

文：Seb Morgan　編集：下山敬之　写真：Samil Kuo、Ken Marshall

地図で見た台北は山に囲まれているように見えますが、実は水に囲まれた街でもあります。台北には淡水河と基隆河という 2 本の大きな川が流れていて、都市の大部分がこの川に面しています。この 2 本の川は、17 世紀にはスペイン人による侵略へとつながりましたが、後に中国人が移住を始めると水路を使った物資の運搬に利用され、地域に繁栄をもたらしました。これらの川は今日に至るまで、繁栄を極めた台北の商業の歴史と原住民の文化遺産が脈々と受け継がれています。この記事ではこれらの川の周囲にあるおすすめのスポットを紹介していきます。

01

01. 台北市内を流れる淡水河は、この街に絶えず活力を注ぎ続けています。

淡水河

全長が 150km を超える淡水河は、台湾で 3 番目に長い川であり、がえ台北の歴史的スポットをほぼ全て通過します。西門北部の広い水路は新北市を一望でき、夕日を鑑賞するのに最適です。その他にも河畔やヨットハーバーを眺めることができますし、レンタルバイクを活用すればサイクリングロードを自由に行き来できます。台北の中心からサイクリングロードを北上すれば、小さな寺廟や庭園を通過しつつ社子島島頭公園へ到達します。

02

大稲埕埠頭

大稲埕埠頭は地元の人たちが散歩に利用する場所で、周囲には、歴史ある場所や小菜という軽食を販売するお店が多くあります。現在は商業と文化の中心となっているこの地域ですが、大きな発展を始めたのは17世紀頃の清朝時代です。大稲埕は当時盛んだったお茶の交易の要所で、そこで得た富がこの地域の建設ラッシュを引き起こしました。現在でもこの時期に建てられた精巧な赤レンガの建築物が良好な状態のまま保存されています。

大稲埕の埠頭には「PIER5」というコンテナを改造したバーや屋台が集まっているエリアがあります。午後にはここで食事をしたり、夕暮れ時にはコンテナの2階から川を眺めながら、地元産の各種クラフトビールを飲んだりといろいろな楽しみ方ができるスポットです。もう少しハイグレードな体験をするならサンセットクルーズが可能な「大河之恋皇后号」というフェリーでのディナーがオススメです。このクルーズ船は北部にある関渡まで行くので、そこから観音山の素晴らしい夕日を眺めましょう。

03

02. 大稲埕埠頭ではかつてのような運搬船ではなく、風光明媚なクルーズを提供しています。

03. 大稲埕埠頭の近くにあるコンテナを改良したお店が多数あり、食事や談笑が楽しめます。

お酒は適量を

関渡埠頭

関渡埠頭は基隆河と淡水河の合流地点にあり、台北の歴史とも密接に関連しています。清朝時代には台北の貿易港として栄え、中国からの移住者が台湾北部へやってくる際の主要な拠点でした。

20世紀になるとこの辺りの商業は衰退しましたが、近年では風通しのよい緑地として復元され、現在はジョギングやサイクリングを楽しむ人たちで賑わっています。埠頭は台北の繁華街が眺められるほか、観光客にも人気の関渡宮があります。1712年に建てられたこの華やかな建物は、海を守る女神の媽祖を祀る施設であり、台湾を代表する重要な寺廟の一つです。関渡の名物料理は鹹蛋（シエンダン）と呼ばれる塩漬けにしたアヒルの卵で、関渡宮のすぐそばにあるオレンジ色のお店が人気です。

関渡宮の南側、基隆河畔には約57ヘクタールの野鳥保護用湿地が広がり、230種以上の鳥類が生息しています。近隣にある関渡自然公園は、水田や湿地、雑木林がパッチワークのように広がるエリアで、お子様連れでの散策にも最適です。また、埠頭から南に向かって伸びるサイクリングロードには、マングローブや小さなカフェがあるので、サイクリングのついでに立ち寄ってみましょう。

04

05

04. 河口付近にある関渡宮は、長い間この地を守り続けています。（写真 /Ken Marshall）

05. 最近リニューアルされた関渡埠頭は、河畔をのんびり散歩するのに最適な場所です。

基隆河

基隆河は台北市北部を横切るように流れており、内湖区と士林区の南の境界線を形成しています。この川は6月下旬に開催される台北国際ドラゴンボート選手権大会の会場として有名です。それ以外の期間は河畔沿いにあるローラースケート場や子供用の運動場、台湾で唯一の公式クリケット場など様々な用途で使用されます。

大佳埠頭

大佳埠頭は、春の終わりになるとカヤックやドラゴンボートの練習が行われ、夏にはイベント会場として賑わいます。子供用の遊具や。75メートルの高さまで噴き出す間欠泉などもあるのでお子様連れの方におすすめのエリアです。

また、台北松山空港の滑走路にも面していて、飛行機の離着陸の様子をカメラに収めることもできます。公園の西側にある林安泰古厝は、19世紀に建てられた閩南式の豪華な邸宅で、広い庭園、月亮門、のどかな蓮池が見どころです。

美堤埠頭

大佳という地域の基隆川を挟んだ北側にあるエリアは、大型ショッピングモールの美麗華など商業施設がたくさんありますが、基隆河沿いのエリアでは最も穏やかな場所です。周囲にある公園はピクニックやサイクリングなど、アウトドアに最適な広さがあり、遠方には台北101が見えます。川辺にある碼頭乾杯は、ビーチをテーマにした人気のイベント会場であり、プライベートパーティーやリバーサイドイベント用のヨットの貸し出しをしています。

錫口埠頭

大佳よりさらに上流にある錫口埠頭は、松山駅近くにあるカラフルな建物や彩虹橋が美しい場所です。「錫口」は「小川の河口」を意味していて、清朝時代には松山地区全体を指す名前でした。近隣には美しい松山慈祐宮があるほか、多くの外国人が訪れる饒河夜市もあります。埠頭に平行して伸びるこの夜市は、100mほどの中にグルメや地元のお土産を販売するお店が立ち並んでいます。

06

07

08

06. 緑豊かで広々とした大佳河濱公園には、スポーツやサイクリング、ランニング、ウォータースポーツなどを楽しむ人たちが訪れます。

07. 錫口埠頭の周辺は基隆河の開発によって大きな発展を遂げました。

08. 饒河夜市と松山慈祐宮は、松山地区の発展に大きく関係している場所です。

春の花を求めて

台北に咲く紫色の花

文：Catherine Shih　編集：下山敬之
写真：北投区農会、台北市政府工務局水利工程処、台北市政府工務局大地工程処

かつてアメリカのジョンソン大統領夫人であるレディ・バード・ジョンソンは、「花が咲く場所には希望も咲く」という名言を残しました。台北には数多くの花が無数に咲き乱れますが、そうした美しい光景は人々に希望をもたらします。自然が豊かな盆地に位置する台北は、毎年春になるとピンク色の桜やツツジ、さらにはゴージャスな紫色の花が咲き、観光客や現地の人たちを楽しませてくれます。

今回は、比較的珍しい紫色の花が咲く台北の景勝地を３か所厳選しました。早春の鮮やかなスミレやアジサイから、晩春に咲くムラサキクンシランやラベンダーなどが鑑賞できるので、ぜひこの時期限定の景色を堪能してみてください。

01

02

古亭河浜公園

紫色の花の海

台北の花見スポットは郊外にあると思われる方も多いですが、実は、花を楽しむ秘密のスポットは台北の中心部にあり、通常は1月中旬から3月中旬までが見頃です。永福橋から比較的近い場所にある古亭河浜公園は32万本以上の花や植物がキレイに並びます。その面積はバスケットコート23.9面分にもなり、一見すると果てしなく続く花の海のようです。この公園では春だけでなく、各季節の花が植えられ、観光客や地元の人たちを楽しませます。特に春はスミレやラベンダーといった紫色の花が鑑賞できるのが特徴です。

独特の香りで知られるスミレは、サイズが小さく、花びらはハート型をしています。また、花が紫色で葉の形が鳥の羽根のようなラベンダーと並ぶことで、他のお花見スポットとは異なる美しい景色を作り上げます。美しい自然だけでなく、ここには空間全体を作品にしたインスタレーション作品の「The Love Arch」と「SWEET-KISS」があります。

アクセスも非常に簡単ですし、祝日や週末も一般開放されていますので、お好きなタイミングで訪れてみてください。特にオススメの時期は花が満開になる3月です。

03

01. 春の訪れを表すピンクと紫の色彩が台北にロマンチックな雰囲気をもたらします。

02-03. 古亭河浜公園に広がる紫色の花の海は、非常に見ごたえのある台北のお花見スポットです。

竹子湖

春のアジサイ祭り

陽明山国立公園の中心部に位置する竹子湖は標高670メートルの地点にあり、台北盆地を見下ろす七星山などの高地に囲まれています。ここは遥か昔に発生した火山爆発によって盆地が形成され、現在の湿地帯となりました。竹林に覆われたこの地域は、竹を意味する「竹子」に台湾語で泥だらけの地を意味する「湖」を加えて「竹子湖」と呼ばれています。

火山の噴火によって形成された酸性土壌と竹子湖の肌寒い気候は、花が育つ際に理想的な環境です。5月下旬を迎える頃には春先に咲いたオランダカイウが影を潜め、一帯がアジサイの紫色に包まれ始めます。春の終わりには、アジサイが幾重にも重なり合う幻想的な光景を作り出します。

竹子湖には、7〜8種類のアジサイが植えられており、白色や赤ピンク、ピンク、赤紫、水色、コバルトブルーなど様々な色の花をつけます。また、園内には色彩豊かなプルメリアも点在しており、アジサイと同じように絶えず色合いが変化することから、写真撮影にも最適です。

04

04-05. 色彩豊かなアジサイの花が竹子湖を幻想的な色へと染め上げます。(写真 / 北投区農会)

05

✿ 内双渓自然中心

鮮やかなムラサキクンシラン

花々は気温の上昇とともに種という殻を脱ぎ捨て、青紫のヴェールを身にまとい、ロマンチックな花を咲かせます。台北最大の森林自然公園「内双渓自然中心」では、5月になると種類豊富な花々がその美しい姿を表します。中でも特に人気が高いのがムラサキクンシランとラベンダー。ムラサキクンシラン（紫君子蘭）は、鮮やかな青紫色の房に、長いものだと茎の長さが1.2メートルにもなる堂々とした姿の花です。この花が醸し出す不思議な雰囲気は、まさに「Love is in the air（恋の予感）」という言葉がピッタリ。ラベンダーは芳香剤でもおなじみですが、温かみのある香りをもたらしてくれます。紫色の可愛らしい花をつけるラベンダーのカーペットと、そこに広がる柔らかな空気をぜひ感じてみてください。

また、自然中心での見頃のピークは、ちょうど母の日とも重なるので、この特別な場所に親子で訪れて、日頃の感謝の気持ちを伝えるのもオススメです。他にも、種の持ち帰りや乾燥ラベンダーを使ったサシェ（香り袋）の手作り体験といったイベントやアクティビティも多く開催されているので家族連れはもちろん、お友達やカップルでも楽しめます。色鮮やかな花を鑑賞しつつ、心から羽根を伸ばしてみてはいかがでしょうか。◆T

06

06-07. 愛情を意味する紫色の花が内双渓自然中心の中に咲き乱れます。(写真 / 台北市政府工務局大地工程処)

07

写真 / Samil Kuo

水面に映し出されたきらびやかなネオンが色鮮やかな台北の夜を引き立てます。
@松山彩虹橋

01

現代の文化遺産
大龍峒金獅団

文：Rick Charette　編集：下山敬之
写真：Samil Kuo、大龍峒金獅団

毎年開催される台北最大の宗教行事「保生文化祭」は、花火が上がり、華やかな雰囲気に包まれます。このイベントが行われる大同区の大龍峒保安宮は台湾で唯一、ユネスコのアジア太平洋遺産賞を受賞している文化遺産です。

このお祭りで最も目を引く光景が獅子舞による演舞です。この演舞を担当するのは200年以上前に誕生した国際的な獅子舞団の「大龍峒金獅団」です。彼らの拠点は哈密街という短い通りの端にある小さな和安宮で、周囲には保安宮の近隣に建ち並ぶ伝統的なお店が軒を連ねています。

中国には、「昔はどの村にもその地を守る獅子がいた」という格言があります。これは、至るところにあった獅子舞団が、拠点とする地を守っていることを意味しています。中国における獅子はこの世とあの世の邪悪なものを追い払う存在です。かつての獅子舞団のメンバーは圧倒的に民兵が多く、鍛え上げた武術を演舞に織り交ぜていました。

金獅団は大龍峒が中華帝国として栄えていた時代から、この地域を守ってきました。現在では、台北市政府から「台北市伝統芸術芸師奨」を授与され、貴重な文化財として認知されています。

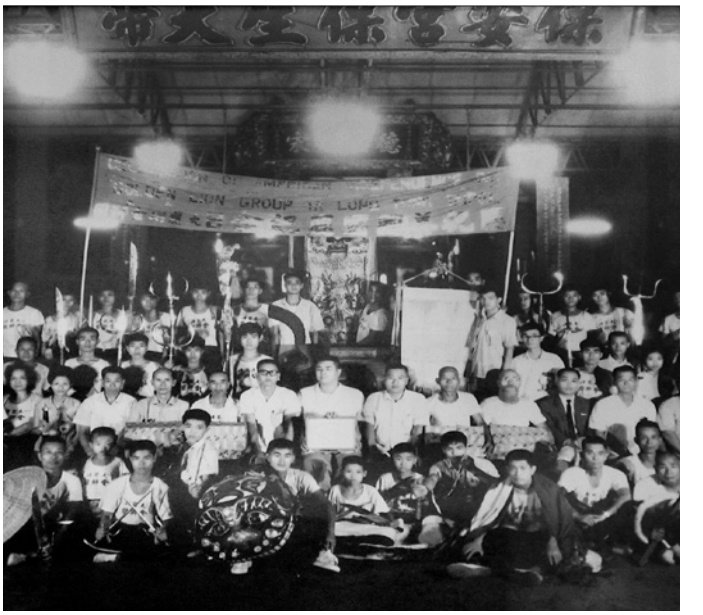
01. 耳のない獅子は大龍峒金獅団独自の特徴です。

文化遺産を後世へ

李世澤（リー・シーザー）氏は、金獅団を正式に統括する非営利財団の総責任者です。李氏の一族は、何代にもわたって金獅子集団の運営に深く関わってきました。「当獅子舞団は台湾で最初に結成されたグループで、台北にわずかに残っているものの一つです」と李氏は述べます。

台湾北部の獅子舞団は「老獅祖」と呼ばれ、多くの獅子舞団にその技を伝えています。寺廟の祭礼や主要な伝統文化の祭典で主役を務めるなど、その地位の高さは折り紙付きです。

現在、金獅団は主に3つの方法で獅子舞の文化を後



02

04

03

02. モノクロ写真には、金獅団が 1950 年代にアメリカ軍に向けてパフォーマンスを行った記録が残っています。

03. 金獅団は武芸、宗教、文化が組み合わさった獅子舞の伝統芸能が、今後も受け継がれていくことを願っています。（写真 / 大龍峒金獅団）

04. 和安宮は金獅団の拠点であり、大龍峒地区で最も古い土地神を祀る寺廟でもあります。

05. 李世澤氏は獅子舞の伝統芸能を積極的に広めています。

世へ残す努力をしています。その1つ目が「生き残るための人材の確保」であると李氏は言います。先進国における伝統芸能や工芸技術は、現代的な文化に関心を寄せる若い世代の人材確保をどうするかが大きな課題となっています。そこで李氏は、国内外のイベントへ積極的に参加するよう指導し、それによって認知度を高めています。2つ目は、公演を教育的なものに変え、現代人に伝統芸能を理解するための基礎を身につけさせることです。そのために公演の際は、進行に合わせて解説を入れるようになりました。3つ目は、他の獅子舞団と協力して、その知識を直接伝えることです。

中でも文化遺産の保存と普及に大きく影響したのは、中国文化大学のコンバットスポーツ・中国武術学部と正式に提携したことです。プロのインストラクターから指導を受けることで、演舞のフォーメーションや武芸に磨きをかけ、さらに体系化されたトレーニング方法を確立することに成功しました。また、この提携によって、金獅団の知識はすべて大学に受け継がれ、台湾だけでなく海外の人材に、その文化と伝統、技術を広めるための正式な拠点ができたのです。

李氏は現在、大学で講師を務めています。その繋がりもあり、人数が多く必要で、さらに長時間に及ぶ公演の場合は、李氏の教え子たちが団員として手伝いをしています。金獅団の公演は最長で90分にも及びますが、最近ではイベントの主催者側から20分ほど「ハイライト」と呼ばれる最もアクションの多い演目を要求されることが多いそうです。パフォーマーは最低30人必要で、金獅団のメンバーはおよそ70人。大規模な演目を披露する場合には、大学の学生が30人ほどヘルプをすることもあります。

05

金獅団の公演の特徴

金獅団は「耳のない獅子」として知られています。1800年代後半に中国湖南省から2人の獅子舞の師範が大龍峒を訪れました。その際に、金獅団の演舞は武芸に偏りすぎておりアクロバティック性はあるが、湖南の美学や芸術性が欠けていると評したそうです。その後、金獅団は芸術性をかけあわせた指導を受けますが、1895年に日本が台湾を統治すると師範たちは中国へ帰省。金獅団は大龍峒－湖南を統合した新しい総合芸術を受け入れて継続するのか、拒否して元のスタイルに戻すのか意見が分かれます。派閥の対立によって練習もままならなくなったため、団長が獅子舞の耳をすべて切り落とし、一度決めたことは他人の意見に振り回されずに貫くべしとしたことが「耳のない獅子」の由来です。これによってアクロバットと芸術性を融合させたスタイルがレパートリーの中核となり、現在まで続いています。

獅子舞の演舞の方法は、主に獅子の頭の位置によって「上路獅、中路獅、下路獅」の3つに分類されます。金獅団は、台湾では数少ない「高頭」と呼ばれる獅子の頭を高く持ち上げる技を常時行います。ほとんどの台湾の獅子舞団は簡単という理由で「低頭」という技を使用します。「高頭」の技法は重い獅子の頭を高く上げ、腕を伸ばした状態をキープしなければならず、パフォーマーが疲弊してしまい、武術の動きや踊りを適切に行うことが難しくなります。しかし、李氏は「頭を下げた状態の獅子は守りがに弱いことを意味します」と述べます。「パフォー

06

マーはよりハードな練習を長く行い、完璧な演舞をしなければなりません。獅子は飛び回る際や激しい動きをする時でも、決して頭を垂れることはありません。頭を高く上げ続けるパフォーマンスは、金獅団が誰に対しても頭を垂れないという誇りを示す意味合いも含まれているのです」。

金獅団の特徴は、獅子の頭を自分たちで作っていることです。他の獅子舞団は、年々数が減っている台湾の職人たちに製作を任せています。金獅団が使用する獅子の頭部は、前述したように耳がないだけでなく他にも様々な特徴があります。李氏によると、「獅子の頭には金色の小さな鏡があり、これは北斗七星を表しています。これによって悪魔や冥界の怨霊も怖じ気づくのです」。また、獅子の鼻は真っ赤に塗られていますが、これは「獅子の王」の証であり、北部では金獅団だけがこれを持つ資格を有しています。

李氏は、パフォーマンスを何度も見に来ている人たちに、より公演が楽しくなるためのテストを行いました。それは、本拠地で行う公演と、それ以外の場所で行う公演における獅子の頭の違いが見分けられるかというものです。この答えは「獅子の口」で、金獅団は本拠地用とそれ以外の公演用とで異なる獅子を用意しています。本拠地用の獅子の口は、歯が上下2列に並び、唇がまっすぐ横に伸びた穏やかで親しみやすい表情をしています。その他の公演用は上唇が反り上がったような、すぼめた口をしていて、獰猛さがよく現れているのが特徴です。ただ、李氏によれば「本拠地以外の場所を敵地と見なして怖い顔にしたわけではありません。これは本拠地である大龍峒の方が安心できることを示しているだけです」。

公演が見られる場所

金獅団と大龍峒保安宮は中華帝国時代から親密な関係を築いてきました。「2007年に私が総責任者に就任して以来、保安宮は新しい舞台装置や資金を提供し、必要に応じて金獅団のトレーニングのために境内を開放してくれました」と李氏は語ります。

毎年開催される保生文化祭では、金獅団が何度も公演を行っています。中でも、神輿と多くのパフォーマーが参加する「保生大帝聖誕巡行」は、特に注目度の高いイベントです。大龍峒を練り歩く巡行によって、保生大帝が地域の平和と祝福をもたらしますが、金獅団はこの巡行に加わり、演舞によって邪悪なものを追い払います。

火渡りの儀式が行われる際には式は、金獅団が最初に寺廟の前で獅子の頭や武器などを振り回しながら、石炭が燃え盛る長い道を清めていきます。

この他にも、「艋舺青山宮」と「台北霞海城隍廟」の2つの寺廟の巡行に参加をしていますし、その他の国内の催事や政府主催の主要な文化祭で演舞を披露しているので、ぜひ実際にそのパフォーマンスを体感してみてください。T

07

06. 獅子の頭の製作の詳細は、地域の歴史と信仰を現在へと伝えてくれています。

07. 獅子の頭にはめ込まれた金色の鏡は、災いを避け吉兆を呼ぶ北斗七星を表しています。

► **大龍峒金獅団の演舞**

台北に息づく閩南式建築の精神

文：AYCC　編集：下山敬之　写真：Taiwan Scene

赤は一般的に熱意や積極性を象徴する色です。台北においては伝統的な閩南式（びんなんしき）建築のシンボルである赤レンガの色であり、現地の人たちにとっては過去の懐かしい記憶を呼び起こす色となっています。こうした伝統の建築物は台北の町並みの変遷を記録し、世代を超えて現在へと残り続けています。

ここでは台北にある３つのレンガ造りの建造物を紹介していきますので、伝統的な閩南式建築文化を学びつつ、近代都市に残るノスタルジックな風景を体験する旅に出かけましょう。

01

閩南式建築の起源

閩南式建築は、中国南東部の福建省を起源とする建築様式で、「福建建築」とも呼ばれます。1684年に台湾が清朝に併合されると、中国南東部沿岸の人々が新生活を求めて台湾に移住しました。それにより福建文化が徐々に台湾各地に根付き、現地の主流文化となったのです。そして人々の定住がされた後に、建築様式を含む街並みが「閩南化」していきました。

しかし、清朝による植民地化がされた後、台湾は日本、国民政府の統治を相次いで受け、福建式建築物の多くは破壊されたり、取り壊されたりしました。特に首都圏では、都市開発のために大量の土地が政府に収用されました。その結果、現在では閩南式建物がほとんど残っておらず、現存する建物はより貴重で特別なものとなっています。

閩南式建築の特徴

閩南式建築の特徴は、なんといっても日干しレンガ、そして赤レンガです。建物の構造基盤は木造であり、瓦葺きの屋根や木製の扉、窓がついています。

加えて、屋根の先端が上向きにカーブしている点も福建式建築に見られる特徴で、中央は平らであるのに対し、左右の端が少し反り返っているのが一般的です。

閩南式建築は対称性に細心の注意を払って建てられますが、これは中国文化における倫理的、精神的、家族的な優劣の概念を反映しています。部屋も家庭内における地位によって配置が決まっていて、中心軸に近い部屋ほど地位が高いことを表します。通常、建物の中央は礼拝の場と来客を迎える空間が置かれる場所です。そこからの左右に部屋が並びますが、年功序列で「左、右、左、右」という法則に従って部屋が配置されます。

したがって、伝統的な台湾の家庭では、中央の部屋の左棟が長男、右棟が次男の部屋となります。三男がいれば長男の左側の部屋、四男は次男の右側の部屋という具合です。このように、家族の人数が多ければ多いほど建物も大きくなっていく点も閩南式建築で造られた民家の特徴です。

01. 閩南式建築を代表する赤色は、台北の伝統的な建築物の美しさを表しています。

02. 屋根の上にあるシンプルな赤レンガと緻密に施された装飾は、閩南式建築における独自のスタイルです。

03. 左右対称の建築構造は中国文化における調和を表しています。

02

03

首都圏の伝統的閩南建築

04

05

04. 台北市内の学校の中には、閩南式住宅の濂譲居が完璧な状態で残っています。

05. 北門は台北を代表する古蹟の1つで、典型的な赤レンガの建築物です。

ロンアンポーホァンジャイリエンランジュー

龍安坡黄宅濂譲居

台北市内の高校の中には典型的な三合院式の住宅がひっそりと佇んでいます。この建築物は「龍安坡黄宅濂譲居」と呼ばれ、1897 年に建てられたものです。約 300 年前に台北に移住した黄家という豪族の私邸でしたが、1999 年に政府によって接収されました。その後、龍門中学校のキャンパスと統合され、現在では台北市の史跡として指定されています。

濂譲居の壁は中国から運ばれた花崗岩で作られていて、馬蹄形の屋根にベゴニア模様の石窓、月形の窓など、いずれも福建省の伝統的な建築様式を踏襲しています。閩南建築には様々な屋根の形がありますが、濂譲居に用いられているのは馬蹄形で、後述する燕尾形と似ていますが、庶民の住居として使われることが多かったために、それほど豪華さはありません。

黄家は元々台北の小作人でしたが、後にこの界隈で代々続く最も大きな地主となりました。現在でも墓参りの時期になると毎年、黄家の人たちは先祖を祀るために濂譲居に戻ってきます。この民家が一般公開されたことで、古めかしくも懐かしい台北の風景を鑑賞することができるようになりました。

リンアンタイグーツォンジュー
林安泰古厝

林安泰古厝は清朝時代であった 1783 年に建てられたもので、現在の台北では最も保存状態の良い福建様式の住宅です。元々は大安区にありましたが、都市計画の一環で中山区の浜江公園に移設されました。

高貴な家庭であった林家は、穀物、絹、茶の販売を専門に海峡横断海運業を営んでいました。一族の邸宅を見ると、所有していた富の大きさが分かります。林安泰古厝の建築の特徴としては、豪華な「燕尾形」の屋根があります。「燕尾形」は屋根の端が軒先まで反り上がっている形状を指し、多くの場合、豪華な装飾が施されます。

また、扉や壁に施された細やかな彫刻も注目すべきポイントです。例えば、軒下には花、鳳凰、古琴、夔龍（きりゅう）などの吉祥を表す模様が描かれています。緻密な装飾が施されたこの壮大な作品は、台北でも非常に人気のある観光スポットの一つとなっており、世界に向けて閩南建築の美しさを発信するスポットでもあります。

北門

台北駅のすぐ近くには 1884 年に建てられた門があり、現在は北門の名で知られています。清朝時代には承恩門と呼ばれていたこの門は、台北市の北の玄関口として機能していました。北門は台北市街地に残る数少ない清朝時代の建造物で、かつて五つあった城門の中で唯一、閩南建築の原型を完全にとどめています。

構造は伝統的な 2 階建ての門楼で、外壁は赤レンガ、台座の石は台北市大直の山地から採取した安山岩が積まれています。北門の屋根は閩南式建築の代表的な屋根形式である「歇山式」です。これは中央から四方向に勾配がある形状を指します。台北市の都市計画により、現在の城門の周りには広場があります。これにより、この歴史的建造物の鑑賞や写真撮影が容易になりました。

06. 林安泰古厝に見られるツバメの尾のような屋根は、高貴な家柄を表す閩南式建築の特徴です。

06

01

八仙六代園
台北での「グリーン革命」

文：Rick Charette　編集：下山敬之　写真：Samil Kuo、八仙六代園

昨今、世界では国連が定めた SDGs を受け、飢餓の根絶と環境悪化を低減するために、持続可能な農業が推進されています。台北にも、この目標の達成に尽力する人たちがいます。台北最大の水田、八仙六代園を経営する王宣智（ワン･シュエンズー）氏と鄭亦真（ジェン･イージェン）氏のご夫妻は、先進国台湾の農業においての変わり者の部類と言えるでしょう。お二人は、台北で農業を営む若い農家です。持続可能な農業を実践しながら、農場で都市住民向けのワークショップを開き、健全な土壌の重要性、持続的に生産される食品の健康効果やその美味しさなどを伝えています。

彼らの農場は、台北の北西に広がる肥沃な関渡平原の基隆河と淡水河が合流する流域です。その源流は、清らかな水が湧き出る雄大な陽明山塊であり、麓には北投温泉もあります。ここでは、都市と自然がまじり合う台北で農業を営むお二人の話を紹介していきます。

02

03

04

グリーンサステナビリティ

八仙六代園の主作物は稲ですが、他にもトウモロコシ、大根、タケノコ、ロメインレタス、プチトマト、新タマネギ、イチゴ、グァバ、パッションフルーツなども栽培しています。彼らが目指すのは、持続可能な農法のモデルとなることと、その普及です。農場は予約制で団体客を受け入れており、持続可能な農業についての講義や季節ごとのイベントへの参加、時期に応じた農作物の作付けや収穫を体験することができます。

「私たちは台北最大の米農家であり、唯一持続型の農法を取っています」と王氏は語ります。彼らは受け継いだ土地の管理者として、鳥や動物、虫と共存しながら、土壌を改善していく責任と信念を持っています。「都会の方で農家の暮らしを知っている方はほとんどいません。特に若い方は、食べ物がどこから来ているのかも理解していないので、そういった方々にも、大地と触れ合う機会を作ってあげたいです」。

持続可能な農業とは具体的に何なのか、という質問を頻繁に頂くそうです。「簡単に言えば、食料生産と生態系保全の均衡が取れた農業です」。水資源の保全、肥料や農薬の使用量の最小化、ゼロ化、生物多様性の推進などを目標としていると王氏は答えます。

王夫妻の持続可能な農業戦略については、「害虫は特定の植物を好むので、輪作によって虫害を最小限に抑えるとともに、自力で栄養分を生成できる植物を栽培し、肥料の使用量を抑えています。八仙六代園では、非合成・完全無農薬の肥料を使用し、完全に天然で毒性が全く無い栽培方法を採用しています。また、米の収穫は年1回とし、その間は休耕したり、土壌を肥沃にする被覆作物を植えたりして、土地を休ませています」。

01. 六代続く関渡の農場を経営する王宣智氏 (右) と鄭亦真氏 (左) は、初となるサスティナブルな農法を取り入れました。

02. 八仙六代園のある関渡平原はかつて台北における主要な米の産地であって、稀有な都市部にある水田地帯です。(写真 / 八仙六代園)

03-04. 大根からトマトまで八仙六代園の農作物は、サスティナブルな農法によって自然に栽培されています。

05

家族から受け継いだ農場

鄭氏の家庭は六代にわたり、この土地で農業を営んできました。農場の「八仙六代園」という名前を直訳すると「八仙の六代目の庭園」となります。「八仙（バーシエン）」はの農場のある地域の名前で、鄭氏は一族の六代目です。「実際には六代以上前からここに住んでいるのですが、詳しいことはわかりません。先祖は大地主の下で働く小作人で、六代目というのは初めて家が建てられた確実な日付から数えています」と鄭氏は言います。

もともとご夫妻は都市部で農業とは無縁な生活を送っていました。高齢になった鄭氏の祖父から農場を受け継いだのは数年前のことです。王氏は「実践しながら学んできました。年長の家族から多くを学び、また自分たちでも農業の講義を受けることで、基礎から先端技術まで知識を広げてきました」と振り返ります。

06

05. 八仙六代園では米だけでなく季節ごとの野菜も栽培しています。

06. 王氏と鄭氏は無農薬で栽培をするために、虫除けのネットを使用して虫害を防いでいます。

台北の農業発展史

大学で歴史を専攻するほど歴史が好きな王氏によれば、かつての台北の農業と現在とでは、米の加工が大きく異なるそうです。台北ではかつて、米を台北西部の大稲埕に運び、加工していました。大稲埕は、「稲を天日干しするための広い土地」という意味で、鄭氏の祖先も米を乾燥させるために、近所の関渡埠頭から船で米を送っていました。この埠頭は現在、「藍色公路」という遊覧船の発着場となっています。現在、米の加工はすべてその場で行い、天日干しをしています。

もう一つの大きな変化は、台北の平地にある農園が徐々に姿を消していることです。台北盆地は面積が狭いことから、住宅や商業施設を開発によって土地が圧迫されます。「関渡平原にはまだいくつかの農園が残っていますが、内湖区の果樹園や文山区の猫空地区の茶屋など、その多くが観光業に転換してしまいました」と王氏は言います。平地における農業の衰退は、他の先進国と同様、若者が農業に従事しなくなってしまったからという理由も大きいそうです。

グリーンサステナビリティへの障害

持続可能な農業に関する障害について尋ねると、「一番は年長の家族でした」と鄭氏は答えてくれました。「年配の農家はなかなか変化を受け入れず、自分たちのやり方にこだわるので、当初は私たちの新しいやり方に賛同してもらえませんでした。ですが、『食べていける』ことをはっきり示すと、考えを変えてくれました」。

持続可能な農業の大きな問題は収穫量の低下です。手作業での除草など、肉体労働がはるかに多いため、王夫妻の農地ではその全てを持続可能な農法に移行できていません。「私たちの作物は健康なので、鳥やリスなどの小動物、虫が頻繁にやってきます」と王氏は言います。対策といえば、畝の間に虫取り用の粘着テープを貼るくらいで、一般的な農家が行う対策をほとんど行っていません。年に1度しか収穫をせず、収穫量も少ないために、価格も高くなります。消費者の中には価格に対して強い抵抗を感じる人もいるそうです。

「持続可能な方法で生産された食品の健康価値を理解されている方々は、価格が高くても安全な作物をお求めになります。私たちは農場で採れたものをほぼ直売していますが、ファーマーズマーケットには参加をしていません。参加するためには生産量を増やす必要がありますし、価格交渉を受けることになるからです」。

07

08

07. 八仙六代園から10分ほどの距離にある関渡埠頭は、かつて米を水運するための重要な拠点でした。

08. 栽培コストが高い高架イチゴですが、八仙六代園では高品質に栽培するための実験を続けています。

グリーン体験会

八仙六代園では、土日祝日を中心に不定期で農業体験を開催しています。日程は季節ごとの作付けや収穫の必要性に応じて変わります。目標は都会の人たちが自然と触れ合うことで、自然との関わりに関心を持ってもらい、長期的には都市の生活スタイルそのものが変わることです。「その一環として台北の方々に、先祖伝来の農法の素晴らしさを伝えたいのです。そうすることで、よりヘルシーで、見た目も良く、栄養価の高い色鮮やかな農作物ができます。地球環境を意識することは、自身の健康にもつながりますし、より良い食べ物、消費サイクル、生活習慣を意識することにもつながります」と王氏は話します。

この農場の繁忙期は、2〜3月の田植え、6〜7月の稲刈り、9月のタケノコ刈り、11月以降の大根掘りです。主作物を輪作する合間に、トウモロコシや花などを植え、土壌に栄養を与えます。「夏に訪れるのが一番オススメです。米が一番キレイに色づきますし、美しく咲いた花も見られます」と鄭氏は勧めます。

王氏によれば、「田植え体験や大根掘り体験は特に人気です。子供たちは『汚いものはダメ』と教わるので、最初は泥まみれになることをためらいますが『汚れる』ことが必ずしも悪いことではないと分かると、泥の中を楽しそうに歩き回ります。また、大人も子供も宝探しのような大根掘り体験が好きなので、大きなものや美味しいものがどこで掘れるかを自ら学びます。他にも農業食品に関するDIY、特にジャムや保存食作り体験が人気です」。

09

「私たちも都会の人間ですが、実は都会での暮らしに居心地の悪さを感じていました。今の私たちは、自然と共存する都会人です。毎日忙しいですが、土地との健全な付き合い方を見つけたことで、都会の中にあるオアシスでの暮らしにもこの上なく満足しています。台北では人工物と自然のバランスをとろうとする人が増え続けているので、そういった人たちの指針を作ることが私たちの目標です」と王氏は話してくれました。

10

八仙六代園

住所 北投区承德路七段 401 巷 551 号
営業時間 09：00 ～ 17：00
サイト facebook.com/beitoubaxianfarm

09-10. 八仙六代園ではシーズン毎に農業体験活動を開催し、都市に住む子どもたちに農業の基礎知識を教えています。(写真 / 八仙六代園)

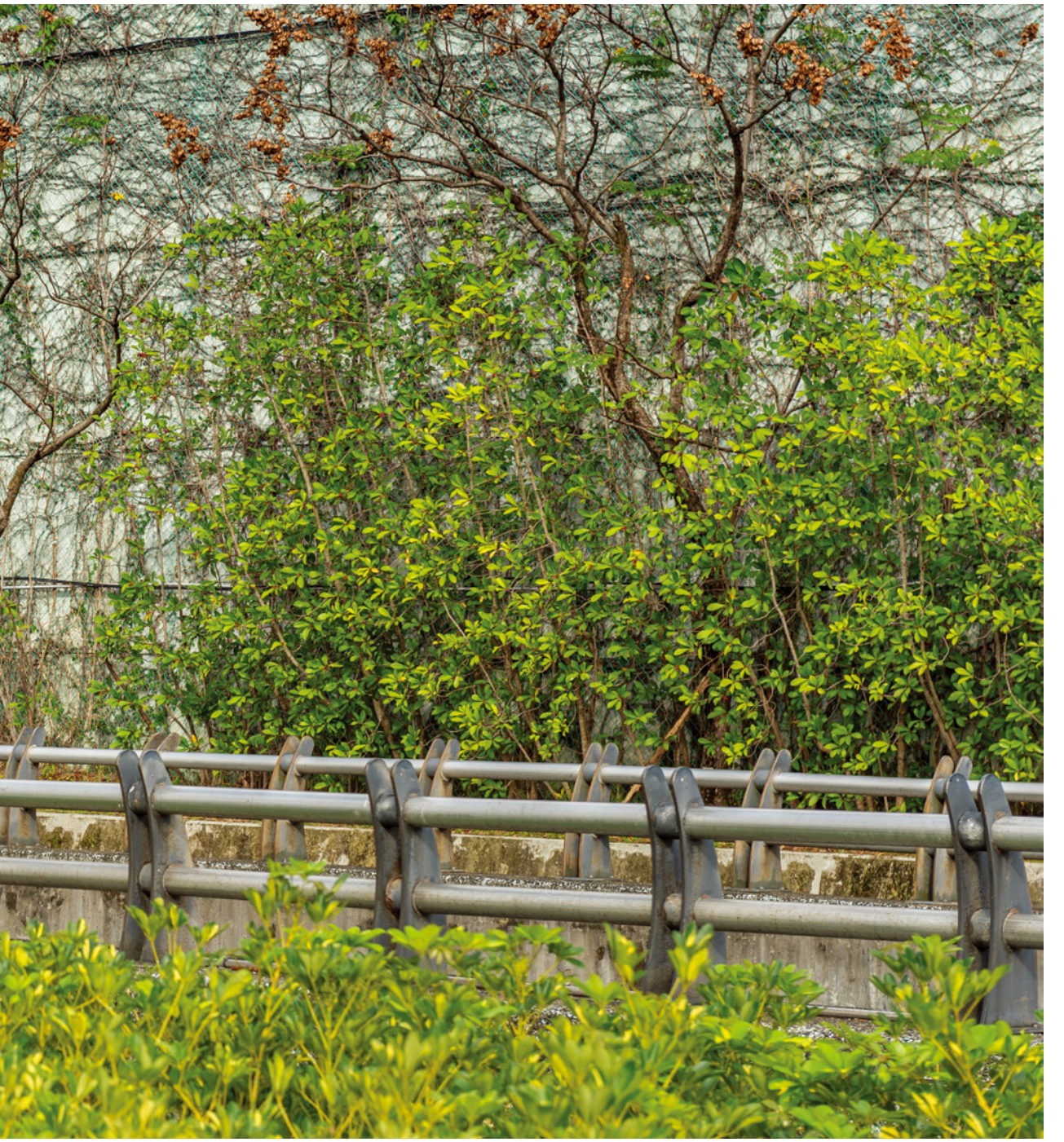


写真 / Samil Kuo

緑が溢れる春の台北では、至るところで心を落ち着かせられるスポットが見つかります。
@延平河浜公園

台北の手作り豆腐

文：Catherine Shih　編集：下山敬之　写真：Samil Kuo、Thomas Kinto

豆腐は台湾の郷土料理に欠かせない食材です。家庭料理やスープだけでなく、デザートにもよく使われます。豆腐は近年、アジアの伝統的な料理や文化における「プラチナ」食材であり、ヘルシーフードの代名詞として、世界的に注目されています。

万味豆府 (ワンウェイドウフー) は、活気あふれる台北の中山区でひっそりと営業する手作り豆腐のお店です。一般的なサラリーマンとは異なり、店主の單淵（シャン·ユアン）氏と余淑茹（ユー·シュールー）氏の生活は、日が昇る頃にはすでに一日の半分が過ぎています。品質と円滑な生産工程を保つため、夫妻は日々精力的に働き、おいしく健康的な手作り豆腐を作り続けています。

01. 素朴な手作りの豆腐は、台湾料理に欠かせない食材です。

01

手作り豆腐の原点

ご夫妻がこのお仕事を始めたきっかけを訊ねてみたところ、余氏から驚くような答えが返ってきました。「きっかけは偶然でした。微風広場というデパートで有機野菜や豆腐の販売係をやっていた友人に、働いてみないかと誘われました。元々働いていた豆腐職人が辞めてしまったので、手伝いを探していたそうです。ですが、私は玩具業界でしか働いたことがなく、主人は軍の専門職に就いていたので、豆腐のことはまったく知りませんでした」。お二人も思わぬ事態だったそうですが、この状況はすぐに変わりました。

「私たちはもともと積極的なタイプです。何かをやるとなれば、うまくやろうと努力します」と余氏は語ります。夫妻は、この分野についての知識を深めるため、50万台湾ドルを投じ、日本の有名な職人のもとで豆腐作りを学んだそうです。「基本的なことは職人の方に教えてもらい、あとは自分たちで少しずつ身に付け、磨き上げてきました」と余氏は誇らしげに話します。

その後、デパートは改装されることとなり、新しいスペースでの出店が難しかったことから、二人は自分たちのお店を開きました。

「正直、デパートで働いていた頃とあまり変わりません。当時とまったく同じで、朝6時から仕事を始めなければなりません。一つだけ違うのは、自分たちのお店ということで、ときどき寝坊をしてしまうことですね」と余氏は笑います。ですが、簡単なことばかりではありません。「エアコンを点けると、豆腐の質が落ちてしまいます。ですが、お客様をお迎えするためにはエアコンが必要になるので、暑いところと寒いところを行き来するうちによく風邪を引いてしまいます。冬場は特に冷えるので、氷の入ったバケツに手を入れて、豆腐を冷やす作業はとても大変です」。

大豆で作る独特の風味

「あまり知られていませんが、豆腐の味を左右する最大の決め手は、実は豆そのものです。私たちは入念に豆を選び、アメリカから輸入した非遺伝子組み換え（GMO）大豆のみを使っています。その豆特有のコクと風味を損ねないよう、工程では水をほとんど加えません」と余氏は教えてくれました。

「当店の豆腐の香りが極めて薄いのもそのためです。製造過程で余計なものは何も加えていません。初めて来店されるお客様には、豆腐本来の味を知っていただくため、まずは豆腐だけで食べるようお勧めしています」。

02

02. 大豆は豆腐や豆製品の品質に大きく影響するため、万味豆府では非遺伝子組み換え大豆を使用しています。（写真 /Thomas Kinto）

きめ細かな生産工程

長年、自営業を営んできた余氏は、豆腐作りの真髄を伝えることに喜びと誇りを感じるそうです。「実はどんな大豆製品でも、まずは豆乳作りから始めなければなりません。豆乳を作るためには、まず最高の大豆を厳選します。選んだ豆を水に浸し、潰して加熱、翌日に煮込むと豆乳ができます。この時、豆乳の濃度に影響を与えるので、加熱するときに加える水の量が重要になります。水が多いと薄くなってしまいますし、水が少なすぎると濃くなりすぎてしまいます。豆乳ができたら、凝固剤としてにがりを加え、豆腐を作ります」。

「豆を挽いてから、濾さずにそのまま煮詰める人もいますが、私は粗い食感が好きではないので、調理前には濾す作業を行っています」。余氏はさらに付け加えます。「この手順は完全に好みによります。粗めの舌触りがお好きでしたら、濾す必要は全くありません」。

さらに、他の大豆製品の製造方法も教えていただきました。「ゆばは、熱い豆乳を冷ましたときにできる上澄みの部分で、豆乳が濃ければ濃いほどできやすいです」。デザートの豆花を作る場合は、豆腐と同じように塩を入れる必要がありますが、量が異なります。また、豆花は表面のきめが独特なので、滑らかさと濃厚な味わいを与えるために、油分か柔軟にする作用のあるエモリエントという成分を加えなければなりません。

課題に取り組み、乗り越える

豆腐は台湾ではおなじみの食材ですが、価格はそれほど安くはありません。余氏によると、「大豆はとても繊細で、特に温度や湿度の変化に敏感に反応して、全体の味が変わってしまいます。しかも厄介なことに、台湾の天気は変わりやすく、夏は暑い上に雨も多いです。ですから生産工程のコントロールがとても難しいです。気候や状況に応じて調整しなければならないこともよくあります」。

さらに彼女は、「正直、豆腐の味のちょっとした変化を感じられる人はそれほどいません。でも、私たちは味と品質を常に一定に保つよう努力しています」と話します。

過去の失敗体験も語ってくれました。「微風広場から自分たちのお店に移ったとき、豆乳がダメになってしまい、売り物にならなくなったことがありました。後でわかったのですが、当店には百貨店と同じような設備がなかったので、生産工程を調整する必要があったのです。こうしたことは、実際に体験してみなければ正しい知識を得ることができません。楽な仕事ではありませんが、決して手は抜きません」。

様々な大豆製品

余氏は、「看板商品は絹ごし豆腐ですが、ゴマ豆腐や抹茶豆腐など、色々な風味の豆腐も作っています。また、とてもおいしい黒豆ミルクやアーモンド味の豆花もあります。当店では何より、季節ごとの味を展開することが多いです」と彼女は自慢げに話します。

ほとんどの製品が同じ原料で出来ているとはいえ、特濃豆乳を使う万味豆府の味わいは特徴的です。豆乳だけを買い、自宅で加熱して豆腐を作るお客さんもいるそうです。

ヴィーガニズムが世界的に流行する前から、大豆製品は必需品であり、台湾料理でも何世紀にもわたり、様々な形で調理されてきました。ご夫妻の努力の結晶である、万味豆府の様々な商品は、伝統の味に新たな解釈を与え、台北の豊かな食文化をさらに多様なものにしています。

03. 豆製品を作る前の一番重要な工程は、豆乳を絶妙な濃度に仕上げることです。

03

手作り豆腐のおすすめ調理法

04

05

絹ごし豆腐

万味豆府の看板メニューです。余氏によると、豆腐本来のおいしさを味わうにはこれが一番。好みに応じて、塩や醤油をかけるのもよいでしょう。そのほかにもお鍋や回鍋肉などに加えたり、煮込んだり、炒めたりしてお召し上がりいただけます。

04-05. 万味の看板メニューである絹ごし豆腐は、醤油と鰹節の組み合わせでお召し上がりください。

06

豆腐干

万味豆府の手作り豆腐は保存料無添加のため、消費期限はわずか 3 日間です。ただ、豆腐干は冷凍保存が可能です。解凍したら豆腐を刻んで少し炒め、醤油とコリアンダーを加えてお召し上がりください。コリアンダーがない場合には、セロリやキュウリでも代用可能です。ヴィーガンの場合、台湾の定番家庭料理である「トマトと卵の炒め物」のスクランブルエッグをスクランブル豆腐として代用しても美味しいです。

豆花

天然のアーモンド粉を使った、万味豆府の杏仁豆花は、シンプルでさわやかな味わいが特徴。砂糖と一緒にお湯で煮て、シロップを加えるとおいしくお召し上がりいただけます。豆乳のコクが好みの方は、シロップの代わりに豆乳に浸してお召し上がりください。

07

06. ゆばを使った料理はシンプルでありながら大豆の香りが楽しめます。

07. 豆花は香ばしい豆乳に浸して食べるのが本格的な台湾の食べ方です。

01

ほろ苦く甘い台湾コーヒーの香り

文：Elisa Cohen　**編集：**下山敬之　**写真：**Samil Kuo、Taiwan Scene

台北で美味しいコーヒーを探すことは難しくありません。世界的に有名なチェーン店が街のいたる所にありますし、小道に入れば上質な豆をセレクトし、自家焙煎の設備を備えた独立系カフェも隠れており、常にコーヒー愛好家たちを魅了しています。

ここ数年、そんな愛好家たちの間で人気が高まっているのが台湾で栽培された国産コーヒーです。《TAIPEI》ではその台湾生まれのコーヒーの魅力をもっとたくさんの人々に知ってもらえるよう、台湾国産コーヒー豆だけを取り扱う森高砂咖啡館（センガオシャーカーフェイグァン）の創業者にお話を伺いました。

台湾産コーヒーの甘い後味

日本時代であった1940年代、台湾は約1000ヘクタールもの広さの農地にコーヒー豆を植えるなど、コーヒー産業が最も発展した時期でした。当時の台湾は、東アジア最大のコーヒー生産国だったのです。その後、戦争や政権交代の影響で、コーヒー産業は徐々に衰退の一途をたどりますが、2000年代になって多くの小規模農家がコーヒー栽培を再開。現在では中央、南部、東部の山間地域で栽培が行われています。

長きにわたり大量生産方式を採用してきた他のコーヒー生産地とは異なり、台湾のコーヒー豆は小規模な独立農家によって栽培されており、収穫から発酵、そして焙煎まですべてを行っています。「台湾の国産コーヒーは淹れている間にお茶のような香りが漂うとよく言われますが、実はそれは新鮮なコーヒー豆の香りなのです」と語るのは、森高砂咖啡館の創業者、董鼎禾（ドン・ディンホー）氏。コーヒー豆は地域の農場で栽培されているため、収穫処理の後すぐに焙煎し挽かれています。それゆえに、輸入豆とは味が全く異なるのです。

台湾全土のコーヒー農家と関わる中で、董氏は国産コーヒーには後味に甘みがあるという独自の特徴を発見しました。これはスクロースの割合が高く、グルコースが少なめであることから、甘みの方が強く、酸味はそれほど感じないのです。もちろん生産地域によっても、それぞれ異なる特徴があります。雲林のコーヒーにはピーナッツのようなフレーバーがありますし、嘉義の豆にはフローラルな香り、台東のコーヒーは焙煎するとサトウキビの香りがします。

02

03

01. 産地直送の台湾コーヒーはお茶のような風味と甘い後味が感じられます。

02. 台北では台湾各地で育てられたコーヒーが味わえます。

03. 小規模農家が丹精を込めて栽培した台湾のコーヒー豆は、その土地ならではの独特の風味があります。(写真 / Taiwan Scene)

コーヒーが生み出すグリーンな環境

「台湾のコーヒーは想像以上です！」と董氏は熱弁を振るいます。森高砂咖啡館では国産のコーヒーのみを販売しており、国内および国際市場に向けて台湾生まれの「スペシャリティコーヒー」を届けることに尽力しています。

しかし、台湾のコーヒー農家はその大半が独立農家のため、すべてを自分たちで行わなくてはならず、生産コストがかさむことから、大量生産の輸入コーヒー豆と比べると競争力がありません。さらに、香料の添加など商業的に標準化した味を作ることができないという課題もあります。そのため、台湾ではジャマイカのブルーマウンテンやハワイのコナのような、国際的に認知されたブランドを生み出すことができないのが現状です。

この問題に取り組むべく、森高砂咖啡館では農場での収穫や生豆の加工処理を最適化するために、プロのバリスタを雇いました。これによりコストが徐々に削減され、継続的な生豆の品質改善が可能となったのです。

森高砂咖啡館は「品質改善こそが、台湾コーヒーを成長させる唯一の道」と信じ、およそ10年間に渡る努力を続けてきました。その結果、コーヒー国際市場における「スペシャリティコーヒー」のトレンドも相まって、台湾のコーヒー産業を盛り上げることに成功。さらに独自のフレーバーを開発することで大きく発展しました。

また、フェアトレードやサステナブルの推進にも注力していて、コーヒー農家に対してビンロウジの木の下にコーヒーを植える手法を推奨しています。ビンロウジの木は根が浅く、丘などの斜面では浸食の被害が問題となっていました。しかし、コーヒーの根は密度が高く、周囲に広がるため、土をしっかりと掴みますし、保水もしてくれます。さらに、ビンロウジはコーヒーに必要な日陰を作ってくれるので、二つの植物がお互いに助け合いながら共存が可能です。このように台湾のコーヒーは環境維持の新たな可能性を模索しながら、発展を続けているのです。

04

05

04. 董鼎禾氏は台湾のコーヒー産業がより発展することを願っています。

05. 森高砂では多様なコーヒーの飲み方を考案し、台湾コーヒーのさらなる可能性を模索しています。

06

台北で台湾コーヒーを味わう

「台湾の中でコーヒーを味わうなら台北が一番です」と董氏は言います。無数のカフェがひしめく台北では、多くの人が様々な味のコーヒーに慣れ親しんでいますし、多くのコーヒーショップでも国産のコーヒー豆を仕入れています。ただ、台湾産コーヒーは生産量がまだまだ少なく、価格もやや高めです。森高砂咖啡館では焙煎方法が異なるコーヒー豆や産地の異なるコーヒー豆を提供し、さらなる認知と販路の拡大を図っています。さらに手動式グラインダー、サイフォン、エスプレッソマシーンといった異なる抽出機器を使用することで、台湾コーヒーの可能性を広げ、愛好家たちに元により親しんでもらえるよう努めています。

「台湾コーヒーを取り扱っていないカフェでも、お客さんがそれを求めている場合には、提供しているカフェをちゃんとお勧めしてくれます」と董氏は言います。台湾コーヒーのみを取り扱っている森高砂咖啡館は、もちろん真っ先にそのオススメの選択肢に上がるそうです。

森高砂咖啡館は台北市内に3店舗あり、様々な角度から台湾コーヒーの販売を促進しています。中でも最も歴史のある大稲埕の支店は、当ブランドのハンドドリップコーヒーが生まれた場所でもあります。オリジナルカクテルを作るかのような繊細な手順で作られるハンドドリップコーヒーは、台湾コーヒー独自の味がしっかりと引き出されています。

華山1914文化創意産業園区内の古い赤レンガの建物には「コーヒー・ラボ」があり、浸漬式の淹れ方を教えています。ここで淹れ方を学べば、国産のコーヒー豆を買うだけで、自宅でもその独自の香りを楽しむことができるのです。

中山北路の旗艦店ではイタリアンスタイルのコーヒーと各種スペシャリティコーヒー、、ハンドドリップや酒蒸しなど様々な淹れ方のコーヒー、季節ごとの新鮮なメニューやデザートに合わせたダークでリッチな風味のコーヒーを提供しています。森高砂咖啡館では、台湾の国産コーヒーを多様な角度から紹介することで、その無限の可能性を感じていただこうと日々研鑽を続けています。

06. 森高砂では各台湾産コーヒー豆の特性や風味に最も合う方法でドリップしています。

森高砂咖啡館で台湾コーヒーを味わう

①

ハンドドリップコーヒー❶

森高砂咖啡館のハンドドリップコーヒーは、コーヒーの試飲会をするような雰囲気があります。冷やしたコーヒーにテイスティング用のチューブ、コーヒーポットを使うことで、温度によって変化するコーヒーの香りが楽しめます。まずアイスコーヒーを一口飲み、コーヒー元来の香りを味わいましょう。次に温かいコーヒーをカップにゆっくり注ぎ、温度の違いが生み出す味や香りの変化をたっぷりと楽しみます。

②

イタリアンスタイルコーヒー❷

台湾各地から集めた最高品種の豆をエスプレッソ豆とブレンドすることで、台湾コーヒーの甘い後味を引き立てます。ラテを注文する場合は、国産コーヒー豆の濃く甘い香りが楽しめるよう、エスプレッソ用のカップで提供しています。その他にもフレーバーコーヒーの開発も行っているので、バラやキンモクセイの香りを加えた、ひと味違うコーヒーが楽しめます。

酒蒸しコーヒー ❸

酒蒸しコーヒーは森高砂咖啡館のオリジナル商品です。コーヒー豆をウイスキー、米酒、小米酒（台湾原住民の伝統のお酒）、紹興酒、ウォッカで蒸し、豆の中にアルコールを浸透させることで、お酒の香りをつけます。その後、高温で煎ってアルコール分は飛ばせば、お酒の香りだけが残ったノンアルコールのコーヒーが完成します。

③

07

07. 森高砂の食事メニューは全てコーヒーに合うよう考えられています。

森高砂大稲埕

住所 大同区延平北路二段 1 号
営業時間 12：00 ～ 20：00

森高砂華山実験室

住所 中正区八德路一段 1 号
営業時間 11：00 ～ 17：00

森高砂中山旗艦店

住所 中山区中山北路一段 133 号
営業時間 11：00 ～ 20：00

01

古民家に注ぐ愛

文：Elisa Cohen　編集：下山敬之
写真：Yenyi Lin、什木工地

大都市である台北には様々な職種の人たちが集まっています。中でもそれぞれの分野における職人たちの活躍は、街に活気をもたらします。今回はもともと大工としてキャリアをスタートさせたデザイナーの江鳴謙（ジャン・ミンチエン）氏にインタビューを行い、自身の手で改装したレンガ造りの古民家や運営している講義、台北に点在する古民家の精神などを伺いました。

02

01. 厳格な印象の江鳴謙氏ですが、大好きな木造家屋と古民家について語る時は穏やかな表情を見せます。

02-03. 什木工地は建築に関する教室であると同時に、江氏自身によるリノベーションプロジェクトの一環でもあります。

対話のキッカケを提供

江氏が運営する。什木工地は、南港区中南街にある古い赤レンガ造りの家で開催されている建築講座です。屋内には様々な機械、木材、製作途中の製品が整然と並べられています。「私は大工の仕事風景を見て育ったため、ずっと憧れていました。大人になったら自分もやってみたいと思っていました」と江氏は振り返ります。江氏は見習いから始め、職人としての伝統的な修行を積み、親方、ゼネコンと仕事を変え、最終的にデザイナーとなりました。

フリーのデザイナーとなった後は、興味を持ったお客さんに声をかけて、一緒に仕事をすることもあったそうです。その中で、人にものを教えることが上手と言われ、建築に関する教室を開くことを勧められました。そうして人々と接する中で、彼は自分が職人の仕事や技術を理解しておらず、ギャップが生じていることに気付きます。

「『仕事を受ける人』と『仕事を依頼する人』とのギャップを埋めたいと思いました」と江氏は言います。そこで彼は、セメントメーカー、鉄工所、陶器モザイクのアーティストなど、さまざまな分野の第一線で活躍する職人たちを招き、講演または作品の紹介をして頂くなどして、知識の交換を行いました。「職人の声が取り上げられることはほとんどなく、その多くは見過ごされてしまいます。なので、対話を促せる場を作りたいと思いました」。このようにして什木工地は、職人が自己表現をしつつ、一般人が質問をしながら彼らについて学べる場となりました。

03

職人の仕事の仕組み

「この分野の仕事は、実はとてもロマンチックです」と江氏は言います。台北の職人の生活は規則正しく、毎日朝7時に出勤し、8時には現場に到着して仕事を開始します。16時半になると目下の仕事を片付け始め、17時には退社。その後は帰宅して家族と過ごすという、平凡ながらも充実した日常です。

大工は通常、建設現場におけるリーダーとなり、石工や鉄工など他の職人の仕事を統括する必要があります。江氏がデザイナーに転身したのもこれが理由です。「現場は厨房のようなものです。焼く、揚げる、盛り付けるという作業工程をそれぞれの担当が行うように、建築にも石工や配管、電気工事と異なる分野の人たちが個々で行う作業もあれば、共同で行う作業もあります。デザイナーの役割は、あらゆる要素を統合し、プロセスを最適化して、効率を向上させることです」と彼は言います。

江氏は職人たちによる講義を企画するほか、北投国中の非常勤講師でもあり、週1回専門的な建築の授業を担当しています。また、什木工地は台北周辺の学校が利用する校外教室でもあり、生徒たちはここで木工機械の操作方法や安全性などを学び、建築に関する様々な専門技術を習得しています。

04

04. 江氏は大工作業がいかに注意の必要な仕事であるか実演をしてくれました。

05. 什木工地は時折、郊外教室へと姿を変え、学生たちに建築の基礎知識を教えています。(写真 / 什木工地)

05

台北古民家の魅力

江氏は仕事柄、台北の古民家の改修プロジェクトにたびたび参加し、歴史的・文化的観点から台北の街を眺めてきました。

什木工地のある中南街については、「ここは南港地区で最初に開発された通りで、以前は荷車が通るような道だったんですよ」と話します。

この通りはかつて、山で採れた石炭や包種茶を輸送する経路でした。什木工地の建物はもともと80年以上にわたり茶屋として使われていたもので、伝統的な店舗付きの住宅を改装したものです。近隣に並ぶ古い家屋もその一軒一軒が通りの歴史を物語っています。近くには赤レンガ造りの閩家古厝と周家古厝があるほか、数多くの店舗付き住宅が残っていて、特徴である少し突き出たベランダが散見されます。

南港車站の近くにあるPOPOP台北は、古い建物を改装したイベントスペースです。2020年にできたこの施設は、台北蚤之市とFuntasty Bazaarの会場として利用されています。江氏は改装には参加していないものの、什木工地をここに移設し、職人たちの体験を世の中に広げていってほしいと打診を受けた経歴があります。

江氏の活動の中で注目すべきは中正区寧波西街にある豊仁薬局の改装です。木枠のガラス窓やレトロなキャビネットを取り入れ、昔ながらの薬局のような、温もりのあるノスタルジックな雰囲気を創出。このプロジェクトは2018年に「台北老屋新生大獎」の銀賞を受賞しました。

「もともと古民家が大好きでした。そこに既存の資源や素材を活かしつつ、自分のスタイルを組み込み、新しい価値を吹き込むことが楽しいです」と江氏は古民家への愛情を熱く語ってくれました。現在は、大同区の南福式古民家や万華区の糖廊文化園区などの改修プロジェクトに参加しています。

江氏は毎日、古民家の観察に出かけ、古いレンガやタイルから地域の物語を紹介するなど、台北の古民家文化の周知により深く携わりたいと考えています。また、それぞれの分野の専門技術を究める職人たちとも協力し、より多くの人にその知恵や古民家の温もり伝えるとともに、台北の昔ながらの精神に触れられる機会を作っていくことが目標だそうです。

06

06. 豊仁薬局には古民家の素朴な美しさが残っています。(写真 / 什木工地)

TRAVEL INFO
旅のお役立ち情報

台北 MRT

営業時間：06:00 ～ 24:00　**24 時間お客様専用ダイヤル：**(02)218-12345

切符：

IC トークン (片道切符)
NT$20-65

MRT 1 デイパス
NT$150

24時間パス
NT$180

48時間パス
NT$280

72時間パス
NT$380

電子マネー：

チャージするだけで MRT(都市交通システム) など公共交通機関やコンビニエンスストア、特約商店での小額決済ができます。レンタサイクルの YouBike にも使えます。購入は MRT やコンビニなどの取扱店で。

EasyCard

iPASS

バス情報

乗車運賃：

大人：現金、EasyCard いずれも 1 区間ごとに 15 元

学生：現金は 1 区間ごとに 15 元、EasyCard の場合は 1 区間ごとに 12 元
(学生証の提示が必要)

身長 115cm 未満あるいは満 6 歳の小人 ：身分証がある場合は無料

バスの路線情報：

Taipei eBus
ebus.gov.taipei/

YouBike 情報

YouBike は台北市の公共レンタサイクルで、EasyCard やクレジットカードでレンタルが可能です。利用料金は 30 分ごとに発生し、レンタル時間の長さによって変動します。詳細は以下を参照してください。

30 分以内	30 分 ～ 4 時間以内	4 時間 ～ 8 時間以内	8 時間以上
5 元	30分ごとに 10 元	30分ごとに 20 元	30分ごとに 40 元

YouBike のレンタル会員になりたい方は、こちらのページよりご登録ください：**taipei.youbike.com.tw/home**

北北基おもしろカード

北北基おもしろカード：

12 の素敵な観光地＋交通機関乗り放題の「無限周遊カード」、交通機関乗り放題の「観光スポット周遊カード」、「交通周遊カード」の 3 種類。有効期限内に台北市と新北市、基隆市を思う存分遊ぶことができます。

無限周遊カード
有効期間は
1 日 /2 日 /3 日券
NT$1,200/1,600/1,900 元

観光スポット周遊カード
2 日 /3 日 /4 日券
NT$650/850/1,050 元

交通周遊カード
有効期間は
1 日 /2 日 /3 日 /5 日 /
猫空ロープウェー 1 日券
NT$180/310/440/700/350 元

旅のインフォメーション

交通部観光局24時間対応、無料の旅行情報ホットライン： 0800-011-765
外国人在台生活相談：0800-024-111
台北市民ホットライン：1999（市外 02-2720-8889）
台北トラベルネット : travel.taipei/ja
(中、英、日、韓、タイ語、インドネシア語、ベトナム語、スペイン語による市内観光情報)

各交通機関や施設の営業時間については、利用前に HP などでご確認ください。

台北市ダブルデク観光バス
TEL: (02)8791-6557 EXT. 30

undiscovered taipei
你所未見的台北

2022 TAIPEI AZALEA
台北ツツジ祭り
FESTIVAL

私たちの約束

3/1—3/31

3/12 土曜日 11:30-17:00 ツツジコンサート 大安森林公園

主催 TAIPEI 觀光傳播局 Department of Information and Tourism

公式サイト

広告

FLOWERS 花IN台北 TAIPEI

2022竹子湖
カラーフェスティバル

カラー
3/18→4/24

アジサイ
5/20→6/19

協賛 | 臺北市政府産業発展局　　主催 | 北投区農会 / 財團法人七星農業發展基金会 / 臺北市農会
詳細は以下のサイトをチェックhttp://www.callalily.com.tw/english.html
又は、北投区農會振興課にお電話ください(02)2892-4185#340

undiscovered taipei

広告